

教科名	家庭	科目名	家庭総合	単数	4	
対象学年	2年 F群		一般・通信	必修・選択必修・選択		
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。					
学習内容の概要	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む 第10章 経済生活を営む 第11章 これからの生活を創造する					
科目の評価の観点 及びその趣旨	知識・技能（技術）【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】			
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。			
教科書、教材など	教科書『家庭総合 自立・共生・創造』（東京書籍）					
授業形態	一斉授業、実習					
年間授業計画						
学期	月	単元	学習内容（ねらい）	曜日	評価	
1学期 （前期）	4	第1章 生涯を見通す	○自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	1	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート
	5	1 人生を展望する 2 目標を持って生きる				
	6	第2章 人生をつくる	○生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ○よりよい家庭生活を実現するため、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。	2	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート
		1 人生をつくる				
		2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家族生活と社会				
	7	第3章 子どもと共に育つ	○子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ○社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	4		観察 調理実習レポート
		1 命を育む				
		2 子どもの育つ力を知る				
		3 子どもと関わる				
		4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境				
8	第4章 超高齢社会を共に生きる	○高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ○自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。	3	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	
	1 超高齢・大衆長寿社会の到来					
	2 高齢期の心身の特徴					
	3 高齢者の自立を支える					
	4 これからの超高齢社会					
	1学期中間考査		1	筆記問題		

2 学期 (後期)		第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	○共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。	2		観察 調理実習レポート	観察 調理実習レポート
		第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基本 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	○よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化等を理解する。 ○自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ○自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。	6	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		9 1学期期末考査		1	筆記問題		
	10 11 12	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	○用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ○健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ○手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。	5	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		第8章 住生活を作る 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	○日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ○持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。	4		観察 調理実習レポート	観察 調理実習レポート
		2学期中間考査		1	筆記問題		
		第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	○自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ○生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	5	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす	○持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。	1	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		2学期期末考査		1	筆記問題		
		まとめ・復習	○これまでの学習内容を踏まえて、これからの自身の生活をよりよくするために大切なことは何か考える。	2	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		備考	合計	39			

教 科 名		家庭	科目名	保育基礎	単位数	4	
対象学年		2 年 A 群		一般・通信	必履修・選択必履修・選択		
科目の目標		保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。					
学習内容の概要		1 章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境 2 章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達 3 章 子どもの生活 1 子どもの生活と擁護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止 4 章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現活動 5 章 子どもの福祉 1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援					
科目の評価の観点及びその趣旨		知識・技能（技術）【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】			
		保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。 子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していかうとする実践的な態度を身につけている。			
教科書、教材など		教科書『保育基礎』（実教出版）					
授 業 形 態		一斉授業、実習・実験					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単元	学習内容（ねらい）	時間	評 価		
					【知】	【思】	【態】
1 学期（前期）	4	1 章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法	○保育の意義と重要性や保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ○保育者観についての考察を深める。	30	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	5	3 保育の環境	○家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場の保育環境の特徴や役割を理解する。				
	6	2 章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性	○乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個別性といった特性があることを理解する。	12	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	7	1 学期中間考査		1	筆記問題		
	8	2 章 子どもの発達 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達	○乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ○心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。	22	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	9	3 章 子どもの生活 1 子どもの生活と擁護 (幼児食実習)	○子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ○乳幼児期の栄養や食事の特徴を、実習を通して理解する。	12	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート 幼児食実習 レポート	観察 振り返りシート 幼児食実習 レポート
		1 学期期末考査		1	筆記問題		

2 学期 (後期)	10	3 章 子どもの生活 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止	○基本的生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。 ○子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。	2 2	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	11	4 章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場	○絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。	1 0	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		2 学期中間考査		1	筆記問題		
	12	4 章 子どもの文化 2 子どもの遊びと表現活動 (保育実習)	○子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ○実際に子どもと触れあう機会や保育の様子を観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもとの適切な関わり方など、保育への理解を深める。	1 6	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート 保育実習レポート	観察 振り返りシート 保育実習レポート
	1	5 章 子どもの福祉 1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援	○子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解する。 ○子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。	2 0	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	2	2 学期期末考査		1	筆記問題		
	3	まとめ・復習	○これまでの学習内容を踏まえて、これからの自身の生活をよりよくするために大切なことは何か考える。	8	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
備考			合計	156			

教 科 名		家庭	科目名	フードデザイン	単位数	4	
対象学年		2 年 B 群		一般・通信	必修修・選択必修修・選択		
科目の目標		・ 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・ 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学習内容の概要		第1章 食生活と健康 1 節 食事の意義と役割 2 節 食を取り巻く現状 第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1 節 栄養素のはたらき 2 節 ライフステージと栄養 3 節 食事摂取基準と栄養計画 第3章 食品の特徴・表示・安全 1 節 食品の特徴と性質 2 節 食品の生産と流通 3 節 食品の選択と表示 4 節 食品の衛生と安全 第4章 調理の基本 1 節 調理とおいしさ 2 節 調理操作 3 節 調味操作 第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1 節 料理様式と献立 2 節 テーブルコーディネート 第6章 フードデザイン実習 1 節 献立作成 調理実習 第7章 食育 1 節 食育の意義と推進活動					
科目の評価の観点及びその趣旨		知識・技能（技術）【知】 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	思考・判断・表現【思】 多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	主体的に学習に取り組む態度【態】 人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。			
教科書、教材など		教科書『フードデザイン』（実教出版）					
授 業 形 態		一斉授業、調理実習					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単元	学習内容（ねらい）	時間	評 価		
					【知】	【思】	【態】
1 学期 (前期)	4	第1章 食生活と健康 1 節 食事の意義と役割 2 節 食を取り巻く現状	○食事の基本的な意義を理解する ○現代の食に関する問題点を把握する。 ○健康維持のために食事がどのように大切かを理解する。	1 2	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	5	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1 節 栄養素のはたらき 2 節 ライフステージと栄養 3 節 食事摂取基準と栄養計画	○各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。 ○各ライフステージの栄養上の注意点を把握する。 ○「食事摂取基準」の考え方を理解する。	1 6	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	6	第6章 フードデザイン実習 調理実習（和風献立）	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかす。	6		観察 調理実習レポート	観察 調理実習レポート
	7	1 学期中間考査		1	筆記問題		

2 学 期 (後 期)	7	第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通	○穀類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等様々な食品について、それぞれの特徴を把握する。 ○多様で多量な輸入食材と日本の食料事情の現状と将来について考える。	36	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	8						
	9	第6章 フードデザイン実習 調理実習（洋風献立）	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかす。	6		観察 調理実習レポート	観察 調理実習レポート
		1学期期末考査		1	筆記問題		
	10	第3章 食品の特徴・表示・安全 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	○食品の表示についての理解を深め、適切な選択をする。 ○食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができるようにする。	14	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
	11	第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	○おいしさにかかわる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ○計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につける。 ○調味に関する基本的な知識を習得する。	20	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		第6章 フードデザイン実習 調理実習（中華風献立）	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかす。	6		観察 調理実習レポート	観察 調理実習レポート
		2学期中間考査		1	筆記問題		
	12	第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	○日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法を理解する。 ○和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートについて考えたり、実際にコーディネートを実践したりする。	14	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成	○栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。	4	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
備考	1	第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動	○食育が生活とどのようにかかわっているか考える。	4	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
		第6章 フードデザイン実習 調理実習（行事食献立）	○これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくるができるようにする。	6		観察 調理実習レポート	観察 調理実習レポート
	2	2学期期末考査		1	筆記問題		
	3	まとめ・復習	○これまでの学習内容を踏まえて、これからの自身の生活をよりよくするために大切なことは何か考える。	8	ワークシート 小テスト	観察 振り返りシート	観察 振り返りシート
合計				156			

教科名	情報	科目名	情報Ⅰ	単位数	4
対象学年	2年 F群		一般・通信	必履修、選択必履修・選択	
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
学習内容の概要	(1) 情報社会と私たち 今までの情報技術とこれからの情報技術 (2) 情報社会と問題解決 問題解決、情報社会における放棄と制度、情報セキュリティと個人が行う対策 (3) コミュニケーションと情報デザイン メディア、コミュニケーション、情報デザインと表現の工夫、コンテンツの制作 (4) 情報とコンピュータ 情報の表し方、コンピュータでのデジタル表現、情報機器とコンピュータ (5) アルゴリズムとプログラム アルゴリズムと基本構造、プログラムの基礎、プログラムの応用 (6) モデル化とデータの活用 モデル化、シミュレーション、データの活用 (7) ネットワークの情報システム ネットワークの仕組み、情報システムとサービス、情報セキュリティ				
科目の評価の観点及びその趣旨	知識・技能（技術）【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】		
	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。		
教科書、教材など	『図説情報Ⅰ』（実教出版）				
授業形態	一斉授業				

年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学習内容（ねらい）	時間	評 価		
					【知】	【思】	【態】
1	4	序章 情報社会と私たち 今までの情報技術とこれからの情報技術	・情報や知識、IoT, 人工知能（AI）について学ぶ。・情報の特徴（残存性、複製性、伝播性）について学ぶ。・情報化による利便性（情報化の「光」）と危険性（情報化の「影」）について学ぶ。・匿名性の特徴、ネットワーク上のルールとマナー、情報の受信者・発信者としてのモラルと責任について学ぶ。	1	小テスト	小テスト	観察 小テスト
	5	1章 情報社会と問題解決 1. 問題解決 2. 情報社会における法規と制度 3. 情報セキュリティと個人が行う対策	問題解決の手順、情報の収集と整理、情報の分析について学ぶ。 情報の管理と保護、知的財産権と産業財産権、著作権について学ぶ。 認証とパスワード、情報の暗号化、コンピュータウイルスと対策について学ぶ。	6			
	6	2章 コミュニケーションと情報デザイン 1. メディア 2. コミュニケーション 3. 情報デザインと表現の工夫 4. コンテンツの制作	メディアの機能と特性、メディアリテラシーについて学ぶ。 効果的なコミュニケーション、インターネット上のコミュニケーションについて学ぶ。 情報デザインの考え方、表現の工夫について学ぶ。 コンテンツ設計、スライド制作と発表について学ぶ。	7	小テスト	小テスト	小テスト
	7				中間考査	中間考査	
	8	3章 情報とコンピュータ 1. 情報の表し方 2. コンピュータでのデジタル表現 3. 情報機器とコンピュータ	デジタル表現の特徴、2進数と情報量について学ぶ。 数値の表現、文字のデジタル表現、音の表現、画像の表現、動画の表現とファイル形式について学ぶ。 さまざまな情報機器、ハードウェアとソフトウェアについて学ぶ。	6	小テスト	小テスト	小テスト
	9				期末考査	期末考査	
	10	4章 アルゴリズムとプログラム 1. アルゴリズムと基本構造 2. プログラムの基礎 3. プログラムの応用	アルゴリズム、アルゴリズムの基本構造について学ぶ。 簡単なプログラムの作成、プログラムと変数について学ぶ。 配列とリスト、関数について学ぶ。	8	小テスト	小テスト	小テスト
	11				中間考査	中間考査	
	12	5章 モデル化とデータの活用 1. モデル化 2. シミュレーション 3. データの活用	モデル化の基礎、モデル化（図的モデル）について学ぶ。 シミュレーションの基礎、シミュレーション（確定的モデル）、シミュレーション（確率的モデル）について学ぶ。 データの収集、データの分析について学ぶ。	5	小テスト	小テスト	小テスト
	1	6章 ネットワークと情報システム 1. ネットワークの仕組み 2. 情報システムとサービス 3. 情報セキュリティ	ネットワークの構成とプロトコル、インターネットの仕組みについて学ぶ。 さまざまな情報システム、データの流れと情報システム、データベースとデータモデルについて学ぶ。 情報セキュリティと対策、暗号技術について学ぶ。	6	期末考査	期末考査	
2	2						
	3						
備考			合計	39			

教科	国語	科目名	国語表現			
対象学年と群	3 年 F 群		一般 (通信)	必履修・選択必履修 (選択)	単位数	4
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
学習内容	ア 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりすること。 イ 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合うこと。 ウ 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書くこと。 エ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりすること。 オ 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。 カ 国語における言葉に成り立ち、表現の特色及び言語の役割などについて理解を深めること。					
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。				
	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、発展させている。				
	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。				
	読む能力					
	知識・理解	言葉の特徴や決まり、役割などの理解を深め、知識を身に付けている。				
評価の方法	中間、期末考査、平素の学習状況、出欠状況、定められた添削課題（レポート）の提出状況、及びその内容等に基づき、総合的に評価する。 評定は5段階をもって表す。（5・4・3・2・1）					
学習方法	○教科書を中心に授業を進める。 ○授業用ワークシートを使用する。 ○レポートを出題する。					
教科書・教材など	○『国語表現』（大修館書店 国表 701） ○授業用ワークシート○辞典（辞典は学校にも用意している）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1	4	【第Ⅰ部】表現力を培う 1 言葉と出会う +実践トレーニング①	3
		2 伝える、伝え合う	3
	5		
		3 小論文・レポート入門	3
	6		
		【1学期中間考査】	1
		4 自己PRと面接 +実践トレーニング②	3
	7		
	8		
	9	5 メディアを駆使する	3
		6 会議・議論・発表	3
		【1学期期末考査】	
		読書のひろば	1
2	10	【第Ⅱ部】表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ	1
		2 無人島で生き残れ	
	11	3 日常生活の正しい過ごし方 4 魅力的なポスターを作ろう 5 「わがまち自慢」のパンフレットづくり 6 働く人にインタビュー 7 たのしいゲームをしよう	9
	12	【2学期中間考査】	
		8 みんなで作ろう国語辞典 9 「私の虫類図譜」を作ろう 10 エッセイを書こう	
	1	11 演説合戦にチャレンジ 12 こちら悩みごと相談室 13 開廷！模擬裁判	1
	2		8
		【2学期期末考査】	1
	3		
		合計	39

教科	国語	科目名	現代文 A			
対象学年と群	2・3年 B群		一般・通信	必修修・選択必修修	選択	単位数 4
科目の目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
学習内容	ア 文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること。 イ 文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすること。 ウ 文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。 エ 近代以降の言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究して、言語文化についての理解を深めること。					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	文章を読む楽しさを味わい、読書に親しむとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。				
	話す・聞く能力					
	書く能力					
	読む能力	目的に応じて、まとまりのある近代以降の文章を読み、自分の考えを深め、発展させている。				
	知識・理解	言語文化及び言葉の特徴や決まりなどの理解を深め、知識を身に付けている。				
評価の方法	各学期の中間、期末考査、平素の学習態度、出席状況等にもとづき評価する。 評定は5段階をもって表す。(5・4・3・2・1)					
学習方法	○教科書を中心に授業を進める。 ○授業用ワークシート、プリントを使用する。					
教科書・教材 など	○『高等学校 標準文学国語』(第一学習社) ○授業用ワークシート ○辞典(国語辞典・古語辞典は学校で用意している)					
授業形態	一斉授業(習熟度別)					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1	4	現代の小説(一) 調律師のるみ子さん デューク	・登場人物の関係から、主人公の心理の変化を読み取る。 1 2
	5	現代の詩 生命は そこにひとつの席が 食事	・詩の構成や展開、比喩に注目して作者の意図を読み取る。 1 0
		現代の小説(二) 相棒 ナイン	・登場人物の心情と行動から人間関係を読み取る。 1 2
	6	随想<芸術> 花のいざない 真珠の耳飾りの少女 【1学期中間考査】	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をもとに、人間、社会、自然などに対する感覚を養う。 9 1
	7	近代の小説(一) 鼻 こころ	・内容、構成、展開や場面設定を捉え、解釈し、その多様性を考察する姿勢を養う。 1 2
	8	戦争と文学(一) バグダッドの靴磨き わたしが一番きれいだったとき 死んだ男の残したものは 春—イラクの少女シャミラに	・構成の意図を考察し、主題を理解する。 1 2
	9	現代の小説(三) 旅する本 富嶽百景 【1学期期末考査】	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を学ぶ。 1 0
			・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を学ぶ。 1
	10	近代の小説(二) 山月記 清兵衛と瓢箪	1 2
	11	近代の詩 こころ 汚れっちまった悲しみに… 永訣の朝	・詩中の表現に注意しながら味わい、作者の思いに触れる。 8
2		現代の小説四 卒業 ひよこの眼	・主人公の、人とのかかわりの中で変化する心情を把握する。 1 2
		戦争と文学(二) 血であがなったもの 夏の花 【2学期中間考査】	・構成の意図を考察し、主題を理解する。 1 2
	1	創作をする 物語を創造する	・文体、表現技法に注意しながら自らの感じ方、思い、考え方を表現する方法を学ぶとともに、言語文化の特質の理解を深める。 1
	2	〈物語を発現する力〉 テーマを決めて短歌・俳句を作る 古典をもとにして物語を作る 【2学期期末考査】	2 4 1
	3		まとめ・復習 8
		合計	156

教科	国語	科目名	古典 A			
対象学年と群	2・3 年 G 群		一般・通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 3
科目の目標	古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。					
学習内容	ア 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること。 イ 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりすること。 ウ 古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解すること。 エ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究して、我が国の伝統と文化について理解を深めること。					
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度		古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統文化に対する関心を深めようとしている。			
	話す・聞く能力					
	書く能力					
	読む能力		まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。			
	知識・理解		伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。			
評価の方法	各中間、期末考査。 平素の学習状況、出席状況等にもとづき評価する。評定は5段階をもって表す。					
学習方法	○教科書を中心に授業を進める。 ○授業用ワークシートを使用する。 ○レポートを出題する。					
教科書・教材など	○『高等学校 標準古典探求』（第一学習社） ○授業用ワークシート ○便覧や古語辞典（学校で用意する）					
授業形態	一斉授業。					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1	4	説話(一) 古文説話集 十訓抄	5
	5	古今著聞集 ◇故事・寓話	5
		随筆(一)	7
	6	徒然草 方丈記 ◇三国志の世界	7
	7	【1学期中間考査】 物語(一) 伊勢物語 竹取物語	1 7
	8	◇漢詩の鑑賞 中国の詩 日本の詩	6
		説話(二)	5
	9	沙石集 宇治拾遺物語 ◇不思議な世界	5
		随筆(二) 枕草子	5
		◇逸話	4
		【1学期期末考査】	1
	2	和歌・俳諧 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 春夏秋冬	8
	10	◇項羽と劉邦	7
	11	説話(三) 御伽草子 宇治拾遺物語	5
2	1	◇諸家の思想	5
		【2学期中間考査】 物語(二) 源氏物語 大鏡	1 6
		◇名家の文章	4
	2	日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記	6
		物語(三) 平家物語	6
		評論 無名草子 無名抄	4
	3	玉勝間 【2学期期末考査】	1
		まとめ・復習	6
		合計	117

教科	地理歴史	科目名	世界史 A / 日本史 A			
対象学年と群	3 年 B 群	一般・通信	必履修・選択必履修・選択	単位数	2/2	
科目の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる国民としての自覚と資質を養う。					
学習内容	A・歴史の扉 B・近代化と私たち C・国際秩序の変化や大衆化と私たち D・グローバル化と私たち					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	近代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。				
	思考・判断・表現	現代世界の諸課題を世界史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。				
	資料活用の技能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。				
	知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。				
評価の方法	平素の学習状況（出席状況・ワークシートの記入・発表・学習態度など）、定期考査等によって、総合的に評価する。					
学習方法	講義形式で教科書の内容に則したプリントを用いて授業を進める。また、視聴覚教材を必要に応じて使用する。					
教科書・教材 など	『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』（山川出版社）、授業プリント					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など		時数
1 (前期)	4	世界のつながり 歴史の扉	中学校の歴史学習の復習 身近な事柄が歴史と結びつきを持っていることを理解する。歴史資料の読み取り方を身につける。	10
		第Ⅰ部 近代化と私たち		
	5	①結びつく世界と 日本の開国	日本を含めた様々な国や地域の動向の比較や関連付けを行うことにより、工業化・交通手段などなどの進展、世界市場の形成について学び、アジア諸国の社会と経済の仕組みや欧米諸国との関係の変容について理解を深める。	16
	6	②国民国家と 明治維新 【定期考査】		17
	7	第Ⅱ部 国際秩序の変化や 大衆化と私たち		1
		【定期考査】		10
	8	①総力戦と社会運動	20世紀の政治・社会・国際関係・大衆の変化等について、資料を活用して情報を読み取り活用する技能を習得し大衆化による社会や生活の変化について考察するための問いを表現する。また、これらのできごとにおける課題について、資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのようなにかかわっているかを理解する。	1
	9	②経済危機と第二次世界大戦		8
	10			15
		第Ⅲ部 グローバル化と 私たち		16
2 (後期)	11	①冷戦と世界経済 【定期考査】		14
		②世界秩序の変容と日本 現代的な諸課題の 形成と展望		1
	12	【定期考査】	グローバル化する世界の在り方について、資料を活用して、情報を読み取りまとめる技能を習得し、人々の生活や社会がグローバル化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。	10
	1			12
	2	テーマ学習	歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。また、現代的課題について歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。	1
	3			16
				8
備考		合計		156

教科	公民	科目名	現代社会			
対象学年と群	3 年 C 群		一般・通信	必修・選択必修・選択	単位数	3
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。					
学習内容	A・公共の扉 B・自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち C・持続可能な社会づくりの主体となる私たち					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。				
	思考・判断・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。				
	資料活用の技能	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。				
	知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。				
評価の方法	平素の学習状況（出席状況・ワークシートの記入・発表・学習態度など）、定期考査等によって、学期ごとに総合的に評価する。					
学習方法	講義形式で教科書の内容に則した授業用プリントを用いて授業を進める。また、視聴覚教材を必要に応じて使用する。					
教科書・教材 など	『公共』（実教出版）、授業プリント					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元	学習内容など	時数
1	4	1・公共の扉 (倫理分野)	青年期や先人の思想、民主的な社会の在り方についての学習や話し合いなどの活動を行う。	8
	5	①社会をつくる私たち ②人間としてよく生きる ③他者とともに生きる		12
	6	④民主社会の倫理 【定期考査】 (政治分野)	民主主義・法の支配など、民主政治の基本原則について理解する。	12 1
	7	⑤民主国家における 基本原則		10
		2・よりよい社会の形成に参加する 私たち 【現代の民主政治と 日本国憲法】	憲法の下、権利や自由が保障され、社会秩序が形成・維持されていることを理解する。平和主義・基本的人権について基本的な事項を理解する。	
		①日本国憲法の基本的 性格		3
		②日本の政治機構と政治参加		
	8	【定期考査】	18歳からの選挙権・裁判員裁判への参加を踏まえ、政治参加や司法参加の意義や課題について学習し、主体的な社会参加について必要な知識や技能を身につける。	1
	9	(経済分野) 【現代の経済社会と 国民生活】		9
	10	①現代の経済社会 【定期考査】 ②日本経済の特質と 国民生活	経済分野の基本的事項について学習し時事的な課題についても、理解を深める。	12
	11	(国際分野) 【国際社会と人類の 課題】	前項で学習した内容をもとに、よりよい社会をつくるために解決すべき課題について考察を深め、表現する。	12
	12	①国際政治の動向と課題 【定期考査】 ②国際経済の動向と課題	国際社会のありかたや、その中で日本の役割などについて学習し、理解を深める。 経済のグローバル化と相互依存関係の深まりの中で見られる諸問題について理解し、解決の方法について考えを深める。	1 10 10
2	1	3・持続可能な社会 づくりの主体と なる私たち		
	2		これまでに学習した内容をもとに、社会の中で解決すべき課題について、各自が探究活動を行う。	10
	3	テーマ学習		6
備考		時間数合計		117

教科	公民	科目名	倫理				
対象学年と群	3 年 H 群		一般 通信	必修修・選択必修修	選択	単位数	2
科目の目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての事故の確率を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
学習内容	1 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 (1) 人間としての在り方生き方の自覚 (2) 国際社会に生きる日本人としての自覚 2 現代の諸課題と倫理 (1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理 (2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理						
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		現代の社会と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。				
	思考・判断・表現		現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在および価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。				
	資料活用の技能		現代の社会の人間に関わる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。				
	知識・理解		現代の社会の社会的事象と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。				
評価の方法	平素の学習状況（出席状況・ワークシートの記入・発表・学習態度など）、定期考査等によって、学期ごとに総合的に評価する。						
学習方法	講義形式で教科書の内容に即した授業用プリントを用いて授業を進める。また、視聴覚教材を必要に応じて使用する。						
教科書・教材 など	『高等学校 倫理』（第一学習者）、授業プリント						
授業形態	一斉授業						

【年間指導計画】

学期	月	単元	学習内容（ねらい）	時間
1	4	○第1編 第1章 人間の心と自己形成 1 青年期の課題と自己形成	第1編 【第1章】・青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考えをもとに、様々な人間の心のあり方を理解する。	6
	5	第2章 人間の存在や価値と宗教 1 ギリシアの思想 2 ユダヤ教とキリスト教 3 イスラーム 4 仏教 中間考査	【第2章】・古代ギリシアの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、儒教などの中国思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。	8 6 1
2	6	5 中国の思想 6 宗教や芸術	【第3章】・人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解する。・人間は自然をどのように捉えてきたかを理解する。・社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想、社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、プラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。	6
	7	第3章 人間のあり方と社会 1 人間の尊厳 2 科学革命の時代と自然観 期末考査		2 7 1
	8	3 自由で平等な社会の実現 4 人間性の回復と主体性の確立		8
	9	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 1 現代の思想と人間像 2 生命への畏敬と社会参加	【第4章】・現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。・社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解する。	8
	10	第5章 国際社会に生きる日本人として自覚 1 日本固有の思想 2 外来思想 中間考査	【第5章】・日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方、外来思想の受容、国学や江戸時代の庶民の思想、西洋思想の受容との関係を理解する。	7 1 7
	11	3 町人思想のめざめと庶民思想 4 西洋思想との出会い	第2編 【第1章】・生命、地球環境、科学技術との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。	6 7
	12	○第2編 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理 期末考査	【第2章】・福祉、文化と宗教、国際平和について倫理的課題を見いだし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の初回を探究する。	1 4
	1	テーマ学習		
	2			
	3			
備考			合計	78

教科	公民	科目名	応用社会					
対象学年と群	2・3年 D群		一般	通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	2
科目の目標	広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、「現代社会」で扱う内容のうち応用的な現代の諸課題を取りあげて、主体的に考察するとともに、自ら人間としてのあり方生き方について考察する基礎的な力を養う。							
学習内容	1 青年期の諸課題 (1) アイデンティティの確立 (2) 自己実現 2 現代の民主政治の諸課題 (1) 日本国憲法の構成と基本理念 (2) 地方自治〔鳥取県・米子市の状況〕 (3) 選挙制度 (4) 政治参加 3 現代の経済社会の諸課題 (1) 中小企業〔鳥取県・米子市の状況〕 (2) 消費者問題 (3) 労働問題・労働者の権利							
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。						
	思考・判断・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。						
	資料活用の技能	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。						
	知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。						
評価の方法	平素の学習状況（出席状況・ワークシートの記入・レポートの作成と発表・学習態度など）、定期考査等によって、総合的に評価する。							
学習方法	自作プリントを使用して講義形式で授業を進めると同時に、各項目ごとにレポートを作成し発表する。また、新聞記事などを用いて小論文の作成やディスカッションを行う。							
教科書・教材 など	自作プリント							
授業形態	一斉授業							

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1. 青年期の諸課題	
	5	アイデンティティの確立	10
		自己実現	8
	6	―― 中間考査 ――	1
	7	2. 現代の民主政治の諸課題	
		日本国憲法の構成と基本理念	10
	8	地方自治（鳥取県・米子市の状況）	9
	9	―― 期末考査 ――	1
2 (後期)	10	選挙制度	8
		政治参加	7
	11	―― 中間考査 ――	1
	12	3. 現代の経済社会の諸課題	
		中小企業（鳥取県・米子市の状況）	8
	1	消費者問題	5
	2	労働問題・労働者の権利	5
		―― 期末考査 ――	1
	3	テーマ学習	4
		時間数合計	78

教科	数学	科目名	数学Ⅱ				
対象学年と群	3年	一般	通信	必修修・選択必修修	選択	単位数	4
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数、微分と積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
学習内容	(1) いろいろな式 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 (2) 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 (3) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (4) 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (5) 微分・積分の考え 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。						
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、考察の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。					
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。					
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。					
評価の方法	定期考査、その他随時行われる小テスト、学習状況（学習態度）、欠席の実態などにもとづき、総合的に評価する。						
学習方法	・教科書に従って授業を進める。 ・適宜、プリントを使用する。						
教科書・教材など	『新編数学Ⅱ』（実教出版）						
授業形態	一斉授業						

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 方程式・式と証明 1節 式の計算 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。 それらを用いて式の展開や因数分解ができる。 整式の除法や分数式の四則計算について理解する。 簡単な場合について整式の除法や分数式の四則計算ができる。	42
	5	2節 複素数と方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解する。 複素数の四則計算ができる。 二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めることができる。	36
	6	3節 式と証明 等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明できる。 ――中間考査――	
	7	2章 図形と方程式 1節 点と直線 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を求めることができる。 座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用できる。	
	8	2節 円 座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用できる。 軌跡について理解する。	
	9	3節 軌跡と領域 簡単な場合について軌跡を求めることができる。 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりできる。 ――期末考査――	
2 (後期)	10	3章 三角関数 1節 三角関数 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。 三角関数とそのグラフの特徴について理解する。 三角関数について、相互関係などの基本的な性質を理解する。	20
	11	2節 加法定理 三角関数の加法定理を理解する。 加法定理を用いて2倍角の公式を導くことができる。	16
	11	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。 指数関数とそのグラフの特徴について理解する。 それらを事象の考察に活用できる。	
		2節 対数関数 対数の意味とその基本的な性質について理解する。 簡単な対数の計算ができる。 対数関数とそのグラフの特徴について理解する。 それらを事象の考察に活用できる。	34
	12	――中間考査――	
		5章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 微分係数や導関数の意味について理解する。 関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。	
	1	2節 微分法の応用 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができる。 微分の考えを事象の考察に活用できる。	
	2	3節 積分法 不定積分及び定積分の意味について理解する。 関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができる。 定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。	
	3	――期末考査――	
時間数合計			148

教科	数学	科目名	数学 A			
対象学年と群	3 年	一般通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	2
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 場合の数と確率，図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
学習内容	(1) 場合の数と確率 場合の数，確率 (2) 図形の性質 三角形の性質，円の性質，作図，空間図形					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、考察の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、その他随時行われる小テスト、学習状況（学習態度）、欠席の実態などにもとづき、総合的に評価する。					
学習方法	・教科書に従って授業を進める。 ・適宜、プリントを使用する。					
教科書・教材 など	『高校数学 A』（実教出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則について理解する。	21
	5	具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解する。 それらの総数を求めることができる。 ――中間考査――	
	6	2 節 確率 確率の意味や基本的な法則についての理解を深める。 それらを用いて事象の確率を求めることができる。	18
	7	確率を事象の考察に活用できる。 独立な試行の意味を理解する。 独立な試行の確率を求めることができる。	
	8	それを事象の考察に活用できる。 条件付き確率の意味を理解する。 簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	
	9	それを事象の考察に活用できる ――期末考査――	
2 (後期)	10	(場合の数と確率 続き)	18
	11	――中間考査――	
		3 章 図形の性質	17
		1 節 作図 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用できる。	
	12	2 節 三角形の性質 三角形に関する基本的な性質について，それらが成り立つことを証明できる。	
	1	3 節 円の性質 円に関する基本的な性質について，それらが成り立つことを証明できる。	
	2	4 節 空間図形 空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。 多面体などに関する基本的な性質について理解する。 それらを事象の考察に活用できる。 ――期末考査――	
	3		
		時間数合計	74

教科	数学	科目名	数学B			
対象学年と群	3年	一般通信	必修・選択必修	選択	単位数	2
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
学習内容	(1) 数列 数列とその和、いろいろな数列、漸化式と数学的帰納法 (2) 統計的な推測 確率変数と確率分布、正規分布、統計的な推測					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、考察の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、その他随時行われる小テスト、学習状況（学習態度）、欠席の実態などにもとづき、総合的に評価する。					
学習方法	・教科書、プリントに従って授業を進める。 ・適宜、プリントを使用する。					
教科書・教材 など	『高校数学B』（実教出版）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	1章 数列	15
	5	1節 数列とその和 ・数列, 等差数列, 等比数列について理解し, その一般項を求めることを学ぶ。 ・等差数列や等比数列について, その和の求め方を学ぶ。	
	6	――中間考査――	
		2節 いろいろな数列	13
	7	・ Σ 記号の使い方や表し方について学び, Σ の性質を用いて自然数の和や自然数の2乗の和, いろいろな数列の和を求められるようにする。 ・階差数列について理解し, 階差数列を用いて数列の一般項を求める方法を学ぶ。	
	8	3節 漸化式と数学的帰納法 ・漸化式について理解し, 初項の値と漸化式から数列の一般項を求める方法を学ぶ。 ・数学的帰納法を用いた等式の証明の仕方を学ぶ。	10
	9	――期末考査――	
2 (後期)	10	2章 統計的な推測	14
		1節 確率変数と確率分布 ・確率変数とその分布について理解し, それらを不特定な事象の考察に活用できるようにする	
	11	――中間考査――	12
		2節 正規分布 ・正規分布について理解し, 二項分布との関係を調べたり, 正規分布を用いて不特定な事象の考察をできるようにする。	
	12	3節 統計的な推測 ・推測統計の基本を学び, 標本から母集団の性質を考察できるようにする。	10
	1		
	2	――期末考査――	
	3		
		時間数合計	74

教科	理科	科目名	物理基礎					
対象学年と群	3 年 A 群		一般・通信	必履修	選択必履修	選択	単位数	4
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。							
学習内容	(1) 物体の運動とエネルギー ア 運動の表し方 イ 様々な力とその働き ウ 力学的エネルギー (2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 ア 熱 イ 波 ウ 電気 エ エネルギーとその利用 オ 物理学が拓く世界 カ 様々な物理現象とエネルギーの利用に関する探究活動							
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		・さまざまな物理現象を通して自然に対する関心や探究心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する態度を身に付けている。					
	思考・判断・表現		・物理現象に関する問題を見いだし、科学的に探究する過程を通してそこから導き出した物理学的な考えを的確に表現することができる。					
	観察・実験の技能		・物理現象に関する実験・観察を行い、基本的な操作を修得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を物理学的に探究する技能を見に付けている。					
	知識・理解		・さまざまな物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、物理学的な知識を身に付けている。					
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況、提出物の提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。							
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための観察や演示実験を行う。 ・与えられた課題について、学んだことや実験結果から導出・考察する。							
教科書・教材 など	『物理基礎』（実教出版）、授業プリント、感想・質問用紙							
授業形態	一斉授業							

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	序章 物理量の測定と扱い方	2
		1章 物体の運動	25
		1節 運動の表し方	
		1 速さと等速直線運動、2 速度、位置と変位、3 平均の速度と瞬間の速度	
		4 速度の合成と相対速度	28
		5 加速度 (I) 6 加速度 (II)、7 等加速度直線運動 (I)、	
		8 等加速度直線運動 (II)、9 落体の運動 (I)	
	5	10 落体の運動 (II)、11 落体の運動 (III)	4
	6	2節 力と運動の法則	
		1 力とは	
2 (後期)		—中間考查—	1
		1章 物体の運動	28
		2節 力と運動の法則	
		2 力の性質、3 力のつり合い、4 作用・反作用の法則、5 慣性の法則	
	7	6 加速度が変化する要因 (I) 7 加速度が変化する要因 (II)、8 運動の法則、	18
	8	9 運動方程式の活用 (I)、10 運動方程式の活用 (II)	
		11 摩擦を受ける運動 (I)、12 摩擦を受ける運動 (II)、	
		13 気体や液体から受ける力 (I)、14 気体や液体から受ける力 (II)	1
	9	2章 エネルギー	
		1節 運動とエネルギー	
2 (後期)	10	1 仕事とエネルギー、2 運動エネルギー	10
		3 力の向きと運動の向きが異なる場合の仕事と運動エネルギー	
		4 位置エネルギー、5 力学的エネルギー保存の法則、6 力学的エネルギー	
		保存の法則の検証、7 弾性力がはたらくときの力学的エネルギー保存則、	16
		8 力学的エネルギーが保存されない場合	
		—期末考查—	
	10	2章 エネルギー	12
		2節 熱	
		1 熱と温度、2 熱量の保存 (I)、3 熱量の保存 (II)、	
		4 物質の状態変化、5 熱の利用	1
		3章 波	
		1節 波の性質	
	11	1 波の動きと表し方、2 波の速さと波を表すグラフ、3 縦波と横波	10
		4 波の独立性と重ね合わせの原理、5 定在波 (定常波)、6 波の反射	
		2節 音波	
		1 音の基本的な性質、2 音のさまざまな現象、3 弦の振動、	7
		4 気柱の共鳴 (I)、5 気柱の共鳴 (II)	
		—中間考查—	
	12	4章 電気	10
		1節 物質と電流	
		1 電流、2 抵抗率 (I)、3 抵抗率 (II)	
		2節 磁場と電流	10
		1 発電のしくみ、2 交流の利用	
		5章 物理と社会	
	1	1節 エネルギーとその利用	1
		1 エネルギーの変換と保存、2 エネルギー資源とその利用、3 核反応と	
		原子力発電、4 放射性崩壊と放射線	
	2	—期末考查—	2
		終章 物理学が拓く世界	
合 計			148

教科	理科	科目名	化学基礎				
対象学年と群	3 年 C 群		一般 通信	必履修・選択必履修	選択	単位数	3
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
学習内容	(1) 化学と人間生活 ア 化学と人間生活とのかかわり （ア）人間生活の中の化学 （イ）化学とその役割 イ 物質の探究 （ア）単体・化合物・混合物 （イ）熱運動と物質の三態 ウ 化学と人間生活に関する探究活動 (2) 物質の構成 ア 物質の構成粒子 （ア）原子の構造 （イ）電子配置と周期表 イ 物質と化学結合 （ア）イオンとイオン結合 （イ）金属と金属結合 （ウ）分子と共有結合 ウ 物質の構成に関する探究活動 (3) 物質の変化 ア 物質量と化学反応式 （ア）物質量 （イ）化学反応式 イ 化学反応 （ア）酸・塩基と中和 （イ）酸化と還元 ウ 物質の変化に関する探究活動						
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		・物質や化学現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や化学的に探究する態度を身に付けている。				
	思考・判断・表現		・物質や化学現象に関する問題を見だし、科学的に探究する過程を通してそこから導き出した化学的な考えを的確に表現することができる。				
	観察・実験の技能		・物質や化学現象に関する実験・観察を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を化学的に探究する技能を身に付けている。				
	知識・理解		・物質や化学現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的な知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、提出物の提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。						
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための演示実験や実験観察、生徒実験を行う。						
教科書・教材 など	『新編 化学基礎』（数研出版）、授業プリント						
授業形態	一斉授業						

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	序章 化学の特徴	1
		第1編 物質の構成と化学結合	
		第1章 物質の構成	
	5	1. 混合物と純物質, 2. 物質とその成分, 3. 物質の三態と熱運動	19
		第2章 物質の構成粒子	
	6	1. 原子とその構造, 2. イオン —中間考查— 3. 原子の周期表	19 1
		第3章 粒子の結合	
	7	1. イオン結合とイオンからなる物質, 2. 分子と共有結合,	17
	8	(夏季休業)	
	9	3. 共有結合の結晶, 金属結合と金属 —期末考查—	1
2 (後期)	10	第2編 物質の変化	16
		第1章 物質と化学反応式	
		1. 原子量・分子量・式量, 2. 物質と, 3. 溶液の濃度,	
		4. 化学反応式と物質	
		第2章 酸と塩基の反応	16
	11	1. 酸・塩基, 2. 水の電離と水溶液の pH,	
		—中間考查—	1
		3. 中和反応と塩, 4. 中和滴定	
	12	第3章 酸化還元反応	
		1. 酸化と還元 (冬季休業)	
	1	2. 酸化剤と還元剤, 3. 金属の酸化還元反応, 4. 酸化還元反応の利用	15
		—期末考查—	1
	2		
		まとめ・復習	2
	3		
合 計			111

教科	理科	科目名	生物基礎				
対象学年と群	3 年 D 群		一般・通信	必修修	選択必修修・選択	単位数	2
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
学習内容	(1) 生物と遺伝子 ア 生物の特徴 （ア）生物の共通性と多様性（イ）細胞とエネルギー イ 遺伝子とその働き （ア）遺伝情報とDNA（イ）遺伝情報の分配（ウ）遺伝情報とタンパク質の合成 ウ 生物と遺伝子に関する探究活動 (2) 生物の体内環境の維持 ア 生物の体内環境 （ア）体内環境（イ）体内環境の維持の仕組み（ウ）免疫 イ 生物の体内環境の維持に関する探究活動 (3) 生物の多様性と生態系 ア 植生の多様性と分布 （ア）植生と遷移（イ）気候とバイオーム イ 生態系とその保全 （ア）生態系と物質循環（イ）生態系のバランスと保全 ウ 生物の多様性と生態系に関する探究活動						
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する態度を身に付けている。				
	思考・判断・表現		・生物や生物現象に関する問題を見いだし、科学的に探究する過程を通してそこから導き出した生物学的な考えを的確に表現することができる。				
	観察・実験の技能		・生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を修得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を生物学的に探究する技能を身に付けている。				
	知識・理解		・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、生物学的な知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況や実験レポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。						
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための演示実験や観察、生徒実験を行う。						
教科書・教材 など	『新編 生物基礎』（数研出版）、授業プリント						
授業形態	一斉授業						

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	巻頭特集・序章	1
		第1章 生物の特徴	12
	5	第1節 生物の多様性と共通性, 第2節 エネルギーと代謝, 第3節 呼吸と光合成	
	6	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA	4
		—中間考査—	1
		第2節 遺伝情報の複製と分配, 第3節 遺伝情報の発現	11
	7	第3章 ヒトの体内環境の維持	
	8	第1節 体内での情報伝達と調節	6
	9	—期末考査—	1
		第2節 体内環境の維持の仕組み	3
2 (後期)	10	第3節 免疫のはたらき	10
		第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	4
	11	—中間考査—	1
		第2節 植生の分布とバイオーム, 第3節 生態系と生物の多様性, 第4節 生態系のバランスと保全	18
	12		
	1		1
	2	—期末考査—	
		まとめ・復習	1
合 計			74

教科	理科	科目名	地学基礎						
対象学年と群	3年 E群		一般	通信	必修修	選択必修修	選択	単位数	4
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
学習内容	(1) 宇宙における地球 ア 宇宙の構成 (7) 宇宙のすがた (i) 太陽と恒星 イ 惑星としての地球 (7) 太陽系の中の地球 (i) 地球の形と大きさ (ii) 地球内部の層構造 ウ 宇宙における地球に関する探究活動 (2) 変動する地球 ア 活動する地球 (7) プレートの運動 (i) 火山活動と地震 イ 移り変わる地球 (7) 地層の形成と地質構造 (i) 古生物の変遷と地球環境 ウ 大気と海洋 (7) 地球の熱収支 (i) 大気と海水の運動 エ 地球の環境 (7) 地球環境の科学 (i) 日本の自然環境 オ 変動する地球に関する探究活動								
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。						
	思考・判断・表現		地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。						
	技能		地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。						
	知識・理解		地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。						
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況やレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。								
学習方法	・講義形式で教科書の内容に則した授業プリントを用いて授業を進める。 ・興味・関心を起こすための観察や演示実験を行う。 ・出題されたレポートに取り組み、期限までに提出する。								
教科書・教材 など	『高等学校 地学基礎』(第一学習社)、授業プリント、レポート								
授業形態	一斉授業								

【年間指導計画】

学期	月	単元・目標・学習内容など	時数
1 (前期)	4	第1章 地球のすがた 第1節 地球の外観 第2節 プレートの運動	3 3
	5	第2章 地球の活動 第1節 地震	2
	6	—中間考査— 第2節 火山活動	1 3
	7	第3章 大気と海洋 第1節 地球のエネルギー収支	3
	8	第2節 大気と海水の運動	3
	9	—期末考査—	1
2 (後期)	9	第4章 宇宙と地球 第1節 宇宙と太陽の誕生	3
	10	第2節 太陽系と地球の誕生	3
	11	第5章 生物の変遷と地球環境 第1節 地層と化石 —中間考査—	3 1
	12	第2節 地球と生物の変遷	
		第6章 地球の環境 第1節 地球と科学	3
	1	第2節 日本の自然環境	3
	2	—期末考査—	1
		まとめ	1
		時間数合計	39

教科	保健体育	科目名	体育			
対象学年	3 年	一般・通信	必履修	選択必修・選択	単位数	3
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通し、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					
学習内容	○体づくり運動 自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。 ○陸上競技 自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。 ア 競走 イ 跳躍 ウ 投てき ○球技 チームの課題や自己の能力に応じて次の運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 ア) バスケットボール イ) サッカー ウ) バレーボール エ) 卓球 オ) バドミントン カ) ソフトボール ○体育理論 運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識等を身につけ、豊かなスポーツライフの設計ができるようにする。					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	運動を継続することは健康の保持増進に役立つことを理解し、健康・スポーツに関する諸課題に関心を持ち、課題解決に向けて主体的に取り組もうとする。				
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題に応じて、基礎的な知識や技能を活用し体の動かし方や運動の行い方を工夫している。				
	技能	生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続するために、運動する楽しさや喜びを深く味わい、身に付けた技能をさらに高めたり、記録や技に挑戦したりしている。				
	知識・理解	運動を実生活に取り入れる意義や必要性を理解するとともに、競技会や試合の安全な行い方及び体力の高め方を身に付けている。				
評価の方法	平素の学習状況・欠席状況などにより、総合的に評価する。					
学習方法	・陸上競技では、競走、跳躍、投てきを4時間ずつ、全員で行う。 ・球技では、2学期より種目の選択希望をとる。選択種目が決定したら、種目ごとに、練習内容、チームを決め、協力して取り組む。					
教科書・教材 など	必要に応じて視聴覚教材					
授業形態	体づくり運動・体育理論・陸上競技については一斉授業。球技については選択授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・目標・学習内容など	時数
1 (前期)	4	体づくり運動	7
	5	} 球技 ・バスケットボール ・バレーボール	18
	6		
	7	} 陸上競技	12
	8		
	9	} 球技 ・サッカー ・ソフトボール	23
2 (後期)	10	} 選択球技 ・バスケットボール ・バレーボール ・卓球 ・バドミントン	51
	11		
	12		
	1		
	2		
	3	体育理論 ・スポーツの歴史 ・運動やスポーツの学習方法 ・豊かなスポーツライフのために	6
		時間数合計	117

教科	保健体育	科目名	保 健			
対象学年と群	3 年 E 群		一般	通信	必修・選択必修・選択	単位数 4
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。					
学習内容	(1) 現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。 (2) 安全な社会生活 我々の生活の中にはいろいろな健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることを理解する。 (3) 生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題がある。また、健康で充実した労働環境を作るにはどのようにすればよいかを理解する。 (4) 健康を支える環境づくり 自然環境問題の実態を知り自分にできることを考える。また、我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性を理解できるようにする。					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。				
	思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。				
	知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	定期考査・平素の学習状況・欠席状況などにより、総合的に評価する。					
学習方法	・ 单元ごとにプリント（学習ノート）を埋めながら、教科書を中心に授業をすすめる。 ・ ビデオなどの視聴覚教材を使い、学習の理解を深める。 ・ レポートを提出する。					
教科書・教材 など	『高等学校 保健体育 Textbook 』（第一学習社）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	第1章 現代社会と健康 健康の考え方	9
	5	現代の感染症とその予防 生活習慣病などの予防と回復 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	
	6	1学期中間考査	1
	7	精神疾患の予防と回復 第2章 安全な社会生活 安全な社会づくり	9
	8	応急手当	
	9	1学期期末考査	1
2 (後期)	10	第3章 生涯を通じる健康 生涯の各段階における健康 労働と健康	8
	11	2学期中間考査	1
	12	第4章 健康を支える環境づくり 環境・食品と健康	9
	1	保健・医療制度と機関	
	2	2学期期末考査	1
	3		
			39

教科	芸術	科目名	音楽Ⅰ			
対象学年と群	3年 E群		一般・通信	必修・選択必修・選択	単位数	4
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。					
学習内容	A 表現 (1) 歌唱 B 鑑賞		(2) 器楽	(3) 創作		
評価の観点 及び その趣旨	音楽への 関心・意欲・態度		音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。			
	音楽表現の 創意工夫		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。			
	音楽表現の技能		創意工夫を生かした音楽表現をするために歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。			
	鑑賞の能力		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。			
評価の方法	定期考査（実技を含む）、平素の学習状況、ワークシートやレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。					
学習方法	① 歌唱…読譜・発声及び芸術歌曲やポピュラーソングなどの独唱・重唱 ② 器楽…ギター・和楽器・器楽合奏 ③ 創作…作詞・リズムアンサンブルの作曲・楽曲の編曲・即興演奏 ④ 鑑賞…オペラ・ミュージカル・オーケストラ・日本の打楽器その他					
教科書・教材 など	『MOUSAⅠ』（教育芸術社）、DVD等の視聴覚教材					
授業形態	一斉授業・グループ学習・個別指導					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	歌唱① 発声の基礎を学ぶ。 ・歌う姿勢・呼吸・共鳴を意識した歌唱を目指す。	3
		歌唱② 歌詞及び旋律を歌唱表現に生かす。 ・斉唱や重唱により、歌詞と旋律や曲調との結びつきを考える。	2
	5	アンサンブル① リズムと拍子の特徴、楽曲を特徴づけている要素を生かして表現する。 ・音楽的諸要素を歌唱表現に生かす。	2
	6	歌唱③ 世界の音楽を知り、曲種に応じた発声や器楽の多様な表現を味わう。	3
		鑑賞① ・イタリア歌曲・器楽曲に親しむ。	1
	7	歌唱④ — 中間考査 — 旋律のかけ合いを味わう。 ・重唱や合唱により、各パートのかけ合い部分の効果的な演奏方法を学ぶ。	2
	8	創作① 歌詞に挑戦する。 ・8小節の旋律に歌詞をつける。	2
		器楽① ギターの基礎知識と演奏の基本を学ぶ。 ・ギターの各部位の名称、演奏する姿勢、運指、アポヤンド奏法を知る。	2
	9	— 期末考査 —	1
		器楽② 鑑賞② 歌唱⑤ 旋律以外のパートの役割を知る。 ・楽曲の構成を知り、各パートの役割について考える。ヴォーカルアンサンブルを鑑賞し、平易な楽曲に挑戦する。	2
2 (後期)	10	鑑賞③ ミュージカル独特の雰囲気味わう。 ・ミュージカルの鑑賞を行う。	4
		器楽③ 鍵盤楽器や打楽器の奏法を習得する。 ・平易な器楽合奏曲を演奏する。	2
		創作② リズムアンサンブルの構成を工夫する。 ・リズムアンサンブルを創作し発表する。	1
	11	鑑賞④ 様々なアンサンブル曲を味わう。 ・様々な表現形態の魅力とアンサンブルをする上でのポイントを知る。	2
		— 中間考査 —	1
	12	器楽④ 美しい演奏表現を求める。 ・フレーズや曲想が伝わる表現を考え、発表する。	6
	1	歌唱⑥ ・日本歌曲に親しむ。	
		— 期末考査 —	1
	2	鑑賞⑤ 日本の伝統楽器による演奏を味わう。 ・伝統楽器による音楽を知る。	2
	3		
			39

教科	芸術	科目名	書道 I			
対象学年と群	3 年 E 群		一般・通信	必修修・選択必修修・選択	単位数	4
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容	1 表現 (1) 漢字仮名交じりの書 (2) 漢字の書 (3) 仮名の書 2 鑑賞					
評価の観点及びその趣旨	書への 関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。				
	書表現の 思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。				
	創造的な書表現 の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を活かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。				
	鑑賞能力	日常生活の書の効能や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。				
評価の方法	定期考査（実技を含む）、平素の学習・作品提出状況、欠席状況やレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。					
学習方法	・臨書は教科書にある法帖を使用する。 ・基本用筆は個人に範書して見せる。 ・個別指導をしながら作品を毎時間提出する。添削後、次の時間に清書して仕上げる。					
教科書・教材など	『書 I』・『書 I プライマリーブック』（教育図書）					
授業形態	一斉授業・個別指導					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など		時数
1 (前期)	4	書へのいざない	・漢字の書体の変遷と、仮名の誕生について理解する。	2
	5		・姿勢や執筆など、書の基本を身に付ける。	
	6	鑑賞へのいざない	・書のさまざまな鑑賞形式に触れる。	2
	7	楷書	・楷書の特徴を理解し、楷書古典の書風の相違を感得する。	5
	8		・隋・唐の書の文化について知る。	
	9	【定期考査】		1
		行書	・行書の特徴を理解し、行書古典の書風の相違を感得する。	5
		【定期考査】		1
		草書	・草書の生まれた背景を知り、特徴を理解する。	4
2 (後期)	10	隸書	・隸書の生まれた背景を知り、特徴を理解する。	3
	11	篆書	・篆書の生まれた背景を知り、特徴を理解する。	4
	12	【定期考査】	・篆刻の基本を知り、自分を表す印を作成する。	1
	1	仮名の書	・仮名の生まれた背景と変遷を理解する。仮名の基本用筆を学ぶ。	4
	2		・平仮名、変体仮名を学ぶ。	
	3	漢字仮名交じりの書	・漢字と仮名による日本語表記とその変遷を知る。	4
		【定期考査】	・生活の中の書を心を込めて書く。	1
		鑑賞へのいざない	・自分と書との関わりに関心を持つ。	2
備考		合計		39

教 科 名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単数	4
対象学年	3 年 B 群		一般 通信	必修・選択必修・選択	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。				
学習内容の概要	ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 A. 題材は、学習者が身近に感じ、かつ学習者の知的好奇心を満足させ得る、バラエティに富んだ内容のものを扱う。前半の課では学習者が身近に感じる話題を扱い、後半の課では学習者に職業を意識させるものや論理的に考えさせる題材を扱う。 B. 題材内容を一方的に与えるだけでなく、学習者自身の意見を引き出したり、クラスメイトに意見を聞いたる活動など、4技能を有機的に関連させる活動をおこなう。 C. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成することが可能なように、本文理解のための設問指示文は英語を中心とする。ただし、学習者の負担に配慮して、具体的な解答例の提示などの工夫をする。				
科目の評価の観点及びその趣旨	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			
	外国語理解の能力	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
	言語や文化についての知識・理解	外国語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	リスニングを含む中間・期末考査、単語テスト、音読・暗唱テスト、授業の参加状況、課題の取り組み状況等を5段階（5、4、3、2、1）で評価する。				
学習方法	年間を通して、教科書を中心に学習を進める。課ごとに、単語学習資料、本文学習資料、問題演習資料を配布し、学習の手助けをする。生徒は単語の意味調べ、本文の内容理解を授業時間内に行う。またコミュニケーション活動を通して、聞く・話す能力を養う。単語テストや暗唱テストを通して基礎・基本の定着をはかる。				
教科書、教材など	Amity English Communication Ⅱ（開隆堂）				
授 業 形 態	一斉授業				
年 間 授 業 計 画					
学 期	月	単 元	学習内容（ねらい）		
一 学 期 ・ 前	4	GET READY 1～4	○言語材料：5文型など ○ねらい：説明する、報告する、描写するなどに必要な基本的な既習表現を復習する。		
		Lesson 1 Okinawa	○言語材料：be動詞・一般動詞の現在形・助動詞 ○ねらい：沖縄についてやり取りしたり、訪れてみたい観光地について紹介したりできるようになる。		
	5				

期	6	Lesson 2 The History of Japanese Food	○言語材料：be動詞・一般動詞の過去形・動名詞 ○ねらい：食事についてやり取りしたり、友達が好きな食べ物について紹介したりできるようになる。	13	
		前期中間考査	○聴き取り・筆記問	1	
		Lesson 3 Volunteer Work	○言語材料：不定詞・受動態 ○ねらい：ボランティアについてやり取りしたり、参加してみたいボランティア活動について書くことができるようになる。	18	
	8	Lesson 4 Gacha-gacha	○言語材料：第4・5文型 ○ねらい：ガチャガチャの景品についてやり取りしたり、景品だったらうれしい物について説明できるようになる。	17	
		Lesson 5 Interesting Aquariums	○言語材料：不定詞（形式主語など） ○ねらい：水族館についてやり取りしたり、水族館と動物園のどちらが好きか説明できるようになる。	17	
		9	1学期既習事項の復 習	○言語材料：ここまでの既習事項 ○ねらい：語彙・文法を中心に既習事項について問題演習等をおして復習する。	5
		前期期末考査	○聴き取り・筆記問・実技評価等※授業内実施	1	
	二 学 期 ・ 後 期	10	Lesson 6 The Relay of Ahmed's Life	○言語材料：知覚動詞・使役動詞 ○ねらい：将来の夢についてやり取りしたり、パレスチナとイスラエルの問題について発表できるようになる。	16
			Communicate+ 1	○言語材料：ここまでの既習事項 ○ねらい：電話やメールで友人を買い物に誘う場面のやり取りできるようになる。	2
11		Lesson 7 Artificial Intelligence	○言語材料：接続詞・前置詞 ○ねらい：AIについてやり取りしたり、理想のAIロボットについて視覚資料を用いて説明できるようになる。	16	
		Focus+ 1	○言語材料：ここまでの既習事項 ○ねらい：校則について話し合ったり、現在完了のイメージを理解することができるようになる。	2	
11		後期中間考査	○聴き取り・筆記問	1	
12		Lesson 8 Mystery of Colors	○言語材料：現在完了・現在完了進行形 ○ねらい：好きな色について説明できるようになる。	6	
		Lesson 9 Street Performers	○言語材料：分詞（形容詞的用法）・分詞構文 ○ねらい：好きなアーティストについて書くことができるようになる。	6	
1		Lesson 10 The Culture of Selfies	○言語材料：関係代名詞（非制限用法） ○ねらい：お気に入りのセルフ写真を用いて、好きな理由を含め、その写真の説明ができるようになる。	6	
		Lesson 11 Finland	○言語材料：関係副詞 ○ねらい：フィンランドの魅力について紹介できるようになる。	6	
2		Lesson 12 In Order to Spend Happy Life	○言語材料：仮定法（過去・過去完了） ○ねらい：過去の自分を振り返り、将来の希望について書くことができるようになる。	8	
		後期期末考査	○聴き取り・筆記問		
備 考				合計	148

教科	外国語	科目名	英語表現Ⅰ			
対象学年と群	3年 C群		一般 通信	必修修・選択必修修・ 選択	単位数	3
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。					
学習内容	ア、与えられた話題について即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。 イ、読み手や目的に応じて、簡潔に書く。ワークシートの重要表現を参考に、情報を整理し、考えをまとめて英語で書いて表現する。 ウ、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表したり、討論したりする。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	外国語表現の能力		事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。			
	外国語理解の能力		読んだり、聞いたり、やり取りした内容を正確に把握している。			
	言語や文化についての知識・理解		英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	定期考査、授業内での観察、授業用シートの活用状況、レポートの提出状況や内容等を総合的に評価する。					
学習方法	おもに教科書と授業用シートを使う。また、自己表現に必要な基本的な語彙や英文法の演習と並行して、ペアワーク等のコミュニケーション活動を行う。一斉授業。必要に応じて視聴覚教材を用いる。					
教科書・教材	Amity English Logic and ExpressionⅠ（開隆堂）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

期 学	月	単元・学習内容など	数 時
1 (前期)	4	Pre-Lesson 1~4 ○日常的な語彙、基本的な文構造の理解	4
		Lesson 1 自己紹介をしよう ○現在形	4
	5	やり取り「どうぞ、よろしく」(自己紹介・他己紹介)	
		Lesson 2 昨日何をした? ○過去形	4
		やり取り「昨日、うれしかったこと」	
	6	Action! Part 1 友だちの好きなものを聞いてみよう	4
		言語活動「英語でインタビュー」	
		Lesson 3 今、何してる? ○進行形	4
		言語活動「絵を見て説明しよう」	
	7	Lesson 4 花粉症ってつらい? ○未来表現: will/be going to	4
		言語活動「ニュースの天気予報に挑戦」	
	8	Scene 1 会話してみよう! 「ファーストフード店に行こう」 ○会話表現	4
		言語活動「マク○ナル○で昼食を」	
	9	—— 中間考査 ——	1
		Lesson 5 手伝ってくれる? ○助動詞①can/may	4
		言語活動「友達にお願いしよう」	
		Lesson 6 浅草寺に行こう ○助動詞②must	5
		言語活動「校則あれこれ」	
		Action! Part 2 富士山に登ろう	5
		言語活動「富士山に登る時、しないといけないことは?」	

2 (後期)		Lesson 7 漢字を学ぶ秘けつ ○現在完了①完了・結果・経験 言語活動「今までに○○したことがありますか？」	5
		Lesson 8 秋葉原ってすごい! ○現在完了②継続・完了進行形 言語活動「ずっと○○しています。」	5
		Skill Up①プレゼンテーションをしよう 発表活動「私の「押し」を紹介します」 —— 期末考査 ——	7 1
	10	Lesson 9 お手製のパン ○受動態 ショート・エッセイ「私のお気に入りの漫画」	4
		Lesson 10 ギネスに挑戦 ○比較①比較級・最上級 言語活動「絵を見て言ってみよう」①	4
	11	Lesson 11 大きなお弁当 ○比較②同等比較・倍数表現 言語活動「絵を見て言ってみよう」②	4
		Action! Part 3 いちばん当てクイズを作ろう 言語活動「最も○○なもののクイズ大会」	2
	12	Scene 2 会話してみよう! 「道案内をしよう」 言語活動「目的地を当てクイズ大会」	2
	1	Lesson 12 アイドル最高! ○動名詞 ショート・エッセイ「私の夢」	4
	2	Lesson 13 備えあれば… ○不定詞①名詞的用法 他 発表活動「私の夢」 —— 中間考査 ——	4 1
	3	Skill Up② パラグラフ・ライティングをしよう ショート・エッセイ「アルバイトをすることは大切？」	2
		Lesson 14 何に使うもの? ○不定詞②副詞的・形容詞的用法 言語活動「絵を見て言ってみよう」	4
		Lesson 15 あの子は誰? ○分詞 言語活動「絵を見て言ってみよう」	3
		Scene 3 会話してみよう! お土産を買おう 言語活動「不思議なお土産屋」	2
		Lesson 16 工場見学に行こう ○関係代名詞①主格・目的格 言語活動「面白製品を発明しよう」	4
		Action! Part 4 日本のお土産をプレゼントしよう ○ここまでの既習事項 言語活動「日本のお土産を紹介しよう」	2
		Lesson 17 あの日のお思い出 ○関係代名詞②what 言語活動「○○なことは・・・」	4
		Lesson 18 おすすめの旅行先 ○関係副詞 where/when 言語活動「地元のおすすめ観光スポットを紹介しよう」	4
		Lesson 19 もしも私が… ○仮定法過去 言語活動「もしも私が○○だったら」	3
		Lesson 20 おでかけするなら? ○接続詞 言語活動「2つの文をつなげてみよう」 —— 期末考査 ——	4 1
		時間数合計	117

教科	外国語	科目名	英語会話			
対象学年と群	3 年 E 群		一般 (通信)	必修修・選択必修修	(選択)	単位数 4
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話したり、討論したりする能力を養う。					
学習内容	ア 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 イ 相手の意見や考え、気持ちについて、必要に応じて質問したり、相手の質問に答えたりする。 ウ 聞いたり読んだりしたことについての自らの意見や主張を、情報や考えなどを場面や目的に応じて、話したり、書いたりして適切に伝える。 I 表現の能力 ・各レッスンの話題に関する英会話でパートナーと会話練習を行う。 ・便利な表現を含む短い会話の中で、語句を入れ替えて会話練習を行う。 ・図や表から必要な情報を読み取り、会話練習を行う。 ・自分の意見や主張などをまとめて、反対の意見や主張に配慮し、様々な情報や考え方を提示しつつ、話したり、書いたりして伝える練習をする。 II 理解の能力 ・聞いたり、読んだりした内容について、語彙や文法についての知識だけでなく、文化的な背景等の知識も活用しながら、的確に理解する練習を行う。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	外国語表現の能力		日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えなど自分が伝えたいことを英語で話したり、書いたりして伝えている。			
	外国語理解の能力		日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解している。			
	言語や文化についての 知識・理解		外国語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	定期考査、インタビューテスト、討論、動画による発表活動、授業参加・発表について観察による評価、授業用ワークシートの活用状況等を総合的に評価する。					
学習方法	おもに教科書とワークシートを使う。ペアワーク等による意見交換や集団による討論などの活動を取り入れた一斉授業。必要に応じて視聴覚教材を用いる。					
教科書・教材 など	『Watching Joyful 2022→2023』（浜島書店編集部）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	Lesson 1 50 Years of Kamen Rider 意見文：「私が考えるヒーローの条件」	2
	5	Lesson 2 Shogi Player: Fujii Sota やり取り：「憧れの著名人」	2
		Lesson 3 Technology Creates New Sports 討論：命題「サッカーこそが日本を代表するスポーツはである」	3
	6	Lesson 4 A Little Animal Called Cheburashka やり取り：「スタジオジブリのアニメーションが日本で最も優れている」	2
		—— 中間考査 ——	2
		Lesson 5 River of Five Colors	2
	7	発表活動：「国外・国内の環境問題について」	
		Lesson 6 Kimetsu no Yaiba Boom	2
	8	やり取り：「おすすめのアニメ」	
		Lesson 7 Antarctic Exploration 意見文：「環境保護と観光を両立するために必要なこと」。	3
	9	—— 期末考査 ——	2
2 (後期)	10	Lesson 8 QuizKnock Tells Fun of Learning やり取り：好きな Youtuber について紹介する。	1
	11	Lesson 9 High School Udon Ambassadors 討論：命題「高校生はアルバイトをすべきである」	3
		Lesson 10 Beautiful Country: Finland 発表活動：「行ってみたい国について」	3
		—— 中間考査 ——	2
	12	Lesson 11 What Do You Want to Be? やり取り：「私の将来の夢」	2
	1	Lesson 12 Vinegar for Your Health 討論：「臓器移植の是非について」	4
	2	—— 期末考査 ——	2
	3		
		時間数合計	37

教科	英 語	科目名	総合英語			
対象学年と群	3 年 A群		一般・通信	必修修・選択必修修	選択	単位数 4
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。					
学習内容	(1) 英語の発音やリズム、イントネーションなどについて理解する。 (2) まとまった内容の英語を聞き、(1)に関連した知識、語彙・文法事項についての知識を活用するなどして、その概要や要点を把握する。 (3) 目的や場面、状況を理解し、ペア、グループで英語を使って対話する。 (4) 特定のテーマについて情報や自分の考えを整理し、図や写真等を活用するなどして、発表活動（スピーチやプレゼンテーションなど）を行う。 (5) 説明文、随筆、物語など様々なタイプの英文読み、論旨の構成や修辭的特徴を理解し、概要や要点を把握する。 (6) 特定のテーマについて情報や自分の考えを整理し、語彙・文法・構文などを効果的に用いながら、英語でレポート（文章）を書く。 (7) いくつかのテーマから自ら選択したものについて課題研究を行う。書籍やインターネットなどを活用するなどして調べたり、考えたりしたことを整理し、英語でレポート（文章）を書いたり、発表活動（スピーチやプレゼンテーションなど）を行う。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	英語表現の能力		英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			
	英語理解の能力		英語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
	言語や文化についての 知識・理解		英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	中間・期末考査のスコアだけでなく、特定のテーマについて面接形式で教師とのやりとりや発表活動等のパフォーマンステストを行い、平素の学習への取り組み状況も加味した上で、総合的に評価する。					
学習方法	音読・シャドーイングなどを取り入れながら、英語独特のリズムやイントネーションに親しむ。また、英文の精読を通して、中学校から高校2年次程度までの既習語彙や文法事項を復習する。英文の内容に関連する音声教材、読み物、動画等にも触れ、題材に関する自分の考え等をまとめ、やり取りしたり、発表活動を行ったりする。					
教科書・教材 など	『Blossom 1』（文英堂）、辞書、ワークシート、視覚教材					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	UNIT 1 ラグビーのはじまり [言語教材：文のパターンと動詞] ○「私の好きなスポーツ」(対話・面接)	7 4
	5	UNIT 2 風船が届けたすてきな夢 [言語材料：時制 (現在・過去)] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	7 3
1 (後期)	6	UNIT 3 米寿の祝いと数え年 [言語材料：時制 (未来)] ○「私が紹介したい日本」(レポート・英作文)	7 4
		中間考査	1
	7	UNIT 4 スマートフォンを探してくれたイルカ [言語材料：現在進行形・過去進行形] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	7 3
		UNIT 5 ニューヨークでのラーメン人気 [言語材料：現在完了] ○「英語で伝える和食のレシピ」(レポート・英作文)	7 4
	8	UNIT 6 ワークショップへの案内 [言語材料：助動詞] ○課題研究① (導入説明・テーマの決定など)	7 4
	9	UNIT 7 地球温暖化にともなう氷河の変化 [言語材料：受動態] ○課題研究② (原稿作成)	8 4
		期末考査	1
2 (後期)	10	UNIT 8 絵画展での悲劇 [言語材料：不定詞①] ○課題研究③ (原稿作成)	6 3
		UNIT 9 盲導犬の飼い主カップル [言語材料：不定詞②] ○課題研究④ (原稿作成)	6 3
	11	UNIT 10 タイの正月の祝い方 [言語教材：動名詞] ○課題研究⑤ (原稿作成・プレゼンテーション資料作成)	6 3
		UNIT 11 日本の新たな地図記号 [言語材料：分詞] ○課題研究⑥ (プレゼンテーション資料作成・最終調整)	6 3
	12	中間考査	1
		UNIT 12 クッキー泥棒 [言語材料：関係代名詞①] ○課題研究⑦ (プレゼンテーション資料作成・最終調整)	6 3
	1	UNIT 13 タコの生態 [言語材料：関係代名詞②] ○課題研究⑧ (発表・評価)	5 4
		UNIT 14 東京圏の電車の混雑 [言語教材：比較①] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	6 4
	2	UNIT 15 ゴールデン・ゲート・ブリッジの歴史 [言語材料：比較②] ○動画視聴・意見交換 (対話・面接)	6 3
		期末考査	1
	3	まとめ [言語材料：既習事項すべて]	3
		時間数合計	156

教科	英 語	科目名	総合英語			
対象学年と群	3 年 G群		一般 通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 3
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。					
学習内容	(1) 発音 (2) 聴解 (3) 対話 (4) スピーチ (5) 読解 (6) 作文 などをおして課の学習内容を確認し、基礎・基本の定着を図る。 I 表現の能力 [話すこと] ・単語の発音練習や本文の音読練習をして、英語を正しい発音で読めることを目指す。 ・日常会話でよく使う表現を繰り返し練習して使えるようにする。 ・ALT に自分の考えを伝える。 [書くこと] ・ペアで相手が読んだことを聞いて、書き取る。 ・与えられた表現を使って、文章を完成させる。 II 理解の能力 [聞くこと] ・各レッスンでリスニングの練習を行う。 ・英語の指示を聞いて活動する。 [読むこと] ・各レッスンの内容を正しく読み取り、理解する。					
評価の観点 及び その趣旨	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	英語表現の能力		英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			
	英語理解の能力		英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			
	言語や文化についての 知識・理解		英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	中間考査、期末考査、授業の中でのインタビューテスト、平素の学習状況、出席状況、定められた課題の提出状況ならびにその内容等にもとづき評価する。					
学習方法	発音や読みの練習を繰り返すことで、英語に慣れる。教科書に即したワークシートを使用し、英文を正確に書けるよう、反復練習をする。既習事項を手がかりに、内容理解をすすめる。					
教科書・教材 など	『Blossom 1』(文英堂)、辞書、ワークシート、視覚教材					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	UNIT 1 ラグビーのはじまり 文型と動詞を理解する。	7
	5	UNIT 2 風船が届けたすてきな夢 時制（現在・過去）を用いて、将来について自分の考えを表現する。	7
		UNIT 3 米寿の祝いと数え年	7
	6	時制（未来）を用いて、日本の文化について自分の考えを表現する。	
		—— 中間考査 ——	1
		UNIT 4 スマートフォンを探してくれたイルカ 進行形を用いて、コミュニケーションの方法について自分の考えを表現する。	7
	7	UNIT 5 ニューヨークでのラーメン人気 完了形を用いて、料理について自分の考えを表現する。	7
	8	UNIT 6 ワークショップへの案内 助動詞を用いて趣味について自分の考えを表現する。	8
	9	UNIT 7 地球温暖化にともなう氷河の変化 受動態を用いて、環境問題について自分の考えを表現する。	8
		—— 期末考査 ——	1
2 (後期)	10	UNIT 8 絵画展での悲劇 不定詞を用いて、芸術について自分の考えを表現する。	7
		UNIT 9 盲導犬の飼い主カップル 不定詞を用いて、人との出会いについて自分の考えを表現する。	7
		UNIT 10 タイの正月の祝い方	7
	11	動名詞を用いて、異文化について自分の考えを表現する。	
		UNIT 11 日本の新たな地図記号 分詞を用いて、ユニバーサルデザインについて自分の考えを表現する。	7
		—— 中間考査 ——	1
		UNIT 12 クッキー泥棒	7
	12	関係代名詞を用いて、やりとりの誤解について自分の考えを表現する。	
		UNIT 13 タコの生態 関係代名詞を用いて、興味のある動物について自分の考えを表現する。	7
	1	UNIT 14 東京圏の電車の混雑 比較を用いて、公共交通機関について自分の考えを表現する。	8
		UNIT 15 ゴールデン・ゲート・ブリッジの歴史	8
	2	比較を用いて、建築物について自分の考えを表現する。	
		—— 期末考査 ——	1
	3	まとめ・復習	4
		時間数合計	117

教科	英語	科目名	異文化理解			
対象学年と群	3年次 F群		一般 (通信)	必修修・選択必修修 (選択)	単位数	4
科目の目標	英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、異なる背景をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図るための態度や能力の基礎を養う。					
学習内容	日常生活、社会生活、風俗習慣、地理・歴史、伝統文化、科学技術等の様々なテーマで地域事情、外国文化との類似点／相違点等について考える。英語で表現するために必要な基礎的文法事項のドリルと並行して、読んだり、聞いたり、やり取りした内容を踏まえ、話題やテーマに適合した構成や論旨を意識しながら、まとめたりした内容を書いて伝える活動を行う。また、写真や絵、図などの視覚資料を活用するなどして内容を効果的に伝える工夫を考える。					
評価の観点及びその趣旨	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。			
	外国語理解の能力		英語で聞いたり読んだりした情報や考えなどを的確に理解している。			
	外国語表現の能力		英語を話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			
	言語や文化についての知識・理解		英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	定期考査、小テスト、授業の参加状況、発表活動、レポート（エッセイ）の提出状況や内容等を総合的に評価する。					
学習方法	おもに副教材とワークシートを活用して、基礎的な文法事項を身に付け、それらの知識をもとに、読み手、聞き手等を意識しながら、効果的に書いたり、話したりして伝えるための学習を行う。一斉授業。必要に応じて視聴覚教材を用いる。					
教科書・教材など	Select English Expression I New Edition（三省堂）、補助プリント					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	Lesson 1 自己紹介 [あいさつ] ○現在形: be 動詞/一般動詞 発表活動「みなさん、はじめまして」	2
	5	Lesson 2 宇宙で食事 [世界の食文化] ○過去形: be 動詞/一般動詞 エッセイ「ALT に伝えたい日本食」	2
		Lesson 3 世界へ羽ばたけ [スポーツ] ○進行形: 現在進行形/過去進行形 発表活動「パラスポーツを紹介しよう」	2
	6	Lesson 4 エーゲ海の島へ [旅行] ○未来表現: will/be going to エッセイ「ALT に伝えたい鳥取県の魅力」	2
	7	—— 中間考査 ——	1
		Lesson 5 アイドル [芸能] ○現在完了形①: 継続/経験 発表活動「わたしの「押し」紹介します」	2
	8	Lesson 6 祭りだ! 祭りだ! [日本文化] ○現在完了形②: 完了/現在完了進行形 エッセイ「ALT に伝えたい日本の祭りの魅力」	2
		Lesson 7 未来のエネルギー [環境] ○助動詞①: can/may 発表活動「我が家の省エネ対策」	2
	9	Lesson 8 世界平和のために [国際社会] ○助動詞②: must/have to/should エッセイ「戦争と平和について」(映画の鑑賞文・意見文)	2
		—— 期末考査 ——	1
2 (後期)		Lesson 9 沖縄美ら海水族館 [生き物] ○不定詞①: 副詞的用法/名詞的用法 マイクロディベート「行くなら水族館? 動物園?」	2
	10	Lesson 10 未来を切り拓く [生き方] ○不定詞②: 形容詞的用法/It~ (for~) to... エッセイ「私の好きな偉人とその生き方」	2
		Lesson 11 はやぶさ2の挑戦[自然科学]○動名詞 発表活動「架空の星の物語」(創作・発表)	2
		Lesson 12 不思議な絵[芸術]○受動態 エッセイ「絵を見て物語を書こう」	2
	11	Lesson 13 ヒエログリフ [外国語・ことば] ○分詞: 現在分詞/過去分詞 言語活動「ヒエログリフで暗号メッセージ・ゲームを楽しもう」	1
		—— 中間考査 ——	1
		Lesson 14 私たちの街にガオー [ご当地] ○関係代名詞: that/who/which エッセイ「わが町のヒーローを紹介」	2
	12	Lesson 15 書道甲子園 [活躍する高校生] ○関係代名詞②: what ○関係副詞: where when/why 発表活動「世界で活躍する日本の高校生」	2
		Lesson 16 どれが一番? [地理] ○比較: 比較級/最上級/as...as~ 発表活動「お気に入りのランドマークを紹介」	2
	1	Lesson 17 限りある水 [国際協力] ○知覚動詞/使役動詞 発表活動「日本の水に関する問題」	2
		Lesson 18 ピサの斜塔 [世界遺産] ○仮定法過去: If~/I wish~ エッセイ「訪れてみたい世界遺産」	2
	2	—— 期末考査 ——	1
		時間数合計	39

教科	家庭	科目名	家庭総合			
対象学年と群	3年 F群		一般・通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 4
科目の目標	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者のかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。					
学習内容	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む 第10章 経済生活を営む 第11章 これからの生活を創造する					
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度		家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。			
	思考・判断・表現		家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。			
	技能		家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。			
	知識・理解		家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。			
評価の方法	定期考査、出席状況、授業態度、レポート等を総合的に評価する。					
学習方法	・学習プリントを使用し、年間を通して、教科書を中心に進める。 ・現状を知ることの中から、生活の課題を見つけ、課題について、新しい生活を創造する視点を持つ。 ・レポートを提出する。					
教科書・教材など	教科書『家庭総合 自立・共生・創造』（東京書籍）					
授業形態	一斉授業					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など		時数
1 (前期)	4	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	○自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	2
	5	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる	○生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	3
		3 これからの家族生活と社会	○よりよい家庭生活を実現するため、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。	2

	6	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	○子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ○社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	1 1 10
	7	第4章 超高齢化社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会	○高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ○自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。	1
	8	1 学期中間考査		
	9	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	○共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。	
		第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基本 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	○よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化等を理解する。 ○自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ○自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。	
		1 学期期末考査		
		第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	○用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ○健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ○手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。	4 4 1
	10	第8章 住生活を作る 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	○日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ○持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。	4 2 1
	11	2 学期中間考査		
	12	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	○自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ○生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	1 1 2
2 (後期)	1	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす	○持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。	
	2	2 学期期末考査		
	3	まとめ・復習	○これまでの学習内容を踏まえて、これからの自身の生活をよりよくするために大切なことは何か考える。	
時間数合計				39

教科	家庭	科目名	子どもの発達と保育			
対象学年と群	3年 A群		一般通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 4
科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。					
学習内容	1章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境 2章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達 3章 子どもの生活 1 子どもの生活と擁護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止 4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現活動 5章 子どもの福祉 1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援					
評価の観点 及び その趣旨	関心・意欲・態度		子どもの身体的・精神的発達や保育に関して、関心をもち、それらを意欲的に学ぶ姿勢がみられる。			
	思考・判断・表現		子どもの発達や保育に関わる幅広い知識を身に付け、また実習や考察などを通して子どもの行動を客観的に判断する思考を育み、子どもの成育、行動、感情、生活などについて理解を深めることができる。これらに関する自身の考えを、レポートや研究発表などで表現できる。			
	技能		子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、子どもを取り巻く問題について推測・考察ができる。			
	知識・理解		子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できている。			
評価の方法	定期考査、出席状況、授業・実習態度、実技試験、提出物等を総合的に評価する。					
学習方法	・ 授業プリントを使用し、年間を通して、教科書を中心に進める。 ・ 実習を行う。					
教科書・教材 など	『子どもの発達と保育 新訂版』（実教出版）					
授業形態	一斉授業、実習・実験					

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など		時数
1 (前期)	4	1章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	○保育の意義と重要性や保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ○保育者観についての考察を深める。 ○家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場の保育環境の特徴や役割を理解する。	30
	5			
	6	2章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性	○乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個別性といった特性があることを理解する。	12
	7	1 学期中間考査		1
	8	2章 子どもの発達 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達	○乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ○心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。	22
	9	3章 子どもの生活 1 子どもの生活と擁護 (幼児食実習)	○子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ○乳幼児期の栄養や食事の特徴を、実習を通して理解する。	12
		1 学期期末考査		1
2 (後期)	10	3章 子どもの生活 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止	○基本的生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。 ○子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。	22
	11	4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場	○絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。	10
		2 学期中間考査		1
	12	4章 子どもの文化 2 子どもの遊びと表現活動 (保育実習)	○子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ○実際に子どもと触れあう機会や保育の様子の観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもとの適切な関わり方など、保育への理解を深める。	16
	1	5章 子どもの福祉 1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援	○子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解する。 ○子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。	20
	2	2 学期期末考査		1
	3	まとめ・復習	○これまでの学習内容を踏まえて、これからの自身の生活をよりよくするために大切なことは何か考える。	8
		時間数合計		156

教科	家庭	科目名	フードデザイン			
対象学年と群	2・3年 B群		一般通信	必履修・選択必履修	選択	単位数 4
科目の目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに、食育の推進に寄与する能力と態度を身につける。					
学習内容	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食を取り巻く現状 第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と栄養計画 第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全 第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作 第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート 第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 調理実習 第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動					
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度		豊かな食事を構成する要素に関心を持ち、食生活の充実向上に			
	思考・判断・表現		取り組む意欲と実践的な態度を身につけている。			
	技能		自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。			
	知識・理解		調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。			
評価の方法	定期考査、実技試験、出席状況、授業・実習態度、提出物等を総合的に評価する。					
学習方法	年間を通して、教科書を中心に進め、調理実習など適宜おこなう。					
教科書・教材など	教科書『フードデザイン』（実教出版）					
授業形態	一斉授業、調理実習					

【年間指導計画】

学期	月	単元・目標・学習内容など		時数
1 (前期)	4	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食を取り巻く現状	○食事の基本的な意義を理解する ○現代の食に関する問題点を把握する。 ○健康維持のために食事がどのように大切かを理解する。	12
	5	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と栄養計画	○各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。 ○各ライフステージの栄養上の注意点を把握する。 ○「食事摂取基準」の考え方を理解する。	16
	6	第6章 フードデザイン実習 調理実習（和風献立）	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかす。	6
	7	1学期中間考査		1
		第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通	○穀類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等様々な食品について、それぞれの特徴を把握する。 ○多様で多量な輸入食材と日本の食料事情の現状と将来について考える。	36
	8	第6章 フードデザイン実習 調理実習（洋風献立）	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかす。	6
	9	1学期中間考査		1
	10	第3章 食品の特徴・表示・安全 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	○食品の表示についての理解を深め、適切な選択をする。 ○食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができるようにする。	14
	11	第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	○おいしさにかかわる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ○計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につける。 ○調味に関する基本的な知識を習得する。	20
2 (後期)	12	第6章 フードデザイン実習 調理実習（中華風献立） 2学期中間考査	○調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかす。	6
		第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート	○日本料理、西洋料理、中国料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法を理解する。 ○和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートについて考えたり、実際にコーディネートを実践したりする。	14
		第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成	○栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。	4
	1	第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動	○食育が生活とどのようにかかわっているか考える。	4
		第6章 フードデザイン実習 調理実習（行事食献立）	○これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくるができるようにする。	6
	2	2学期期末考査		1
	3	まとめ・復習	○これまでの学習内容を踏まえて、これからの自身の生活をよりよくするために大切なことは何か考える。	8
		時間数合計		156

教科	情報	科目名	社会と情報				
対象学年と群	3年		一般	通信	必修・選択必修・選択	単位数	4
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。						
学習内容	(1) 情報社会と私たち 今までの情報技術とこれからの情報技術 (2) 情報社会と問題解決 問題解決、情報社会における放棄と制度、情報セキュリティと個人が行う対策 (3) コミュニケーションと情報デザイン メディア、コミュニケーション、情報デザインと表現の工夫、コンテンツの制作 (4) 情報とコンピュータ 情報の表し方、コンピュータでのデジタル表現、情報機器とコンピュータ (5) アルゴリズムとプログラム アルゴリズムと基本構造、プログラムの基礎、プログラムの応用 (6) モデル化とデータの活用 モデル化、シミュレーション、データの活用 (7) ネットワークの情報システム ネットワークの仕組み、情報システムとサービス、情報セキュリティ						
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。					
	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。					
	技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。					
	知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。					
評価の方法	定期考査、平素の学習状況、欠席状況やレポートの提出状況及びその内容によって、総合的に評価する。						
学習方法	・教科書を中心に、パソコンを操作しながら授業を行う。 ・授業用プリントを使用する。 ・パソコンを使って演習をする。						
教科書・教材など	『最新社会と情報 新訂版』(実教出版)						
授業形態	一斉授業						

【年間指導計画】

学期	月	単元・学習内容など	時数
1 (前期)	4	序章 情報社会と私たち 今までの情報技術とこれからの情報技術	1
	5	1章 情報社会と問題解決 1. 問題解決 2. 情報社会における法規と制度 3. 情報セキュリティと個人が行う対策	6
	6	2章 コミュニケーションと情報デザイン 1. メディア 2. コミュニケーション ――中間審査――	7
	7	3. 情報デザインと表現の工夫 4. コンテンツの制作	
	8	3章 情報とコンピュータ 1. 情報の表し方 2. コンピュータでのデジタル表現	6
	9	3. 情報機器とコンピュータ ――期末審査――	
2 (後期)	10	4章 アルゴリズムとプログラム 1. アルゴリズムと基本構造 2. プログラムの基礎 3. プログラムの応用	8
	11	――中間審査――	
		5章 モデル化とデータの活用	5
	12	1. モデル化 2. シミュレーション 3. データの活用	
	1	6章 ネットワークと情報システム 1. ネットワークの仕組み	4
	2	2. 情報システムとサービス 3. 情報セキュリティ ――期末審査――	
	3		
		時間数合計	37

「総合的な探究の時間」

観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的・問題解決的な学習を取り入れながら、横断的・総合的な学習を行います。

探究的な学習を実現するため、自ら課題を見つけます。そして、情報の集め方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などを学び、問題解決に向けての主体的・協働的な態度を育てます。さらに、自己や社会をみつめ、自己の在り方・生き方やよりよい社会の実現について考えます。

開講講座例（昨年度のもの）

テーマ	目 標	活 動 内 容
「こうさく」しようⅡ	“ものづくり”の面白さに気づく。	木工と耕作
小さな読書会	本を読む楽しさを分かち合う。	みんなで同じ本を読み、簡単な意見交換を行う。（意見交換に参加できる人を希望）
まわし読み新聞を作ろう	自分の興味・関心を広げるとともに、他者への理解を深める。	各自が気になった新聞記事を切り抜き、発表した後、記事を模造紙に貼り付け「まわし読み」新聞を作成する。
音楽と手話を楽しもう	音楽を楽しみ、手話に親しむ	・いろいろなジャンルの音楽を聴き、イメージをふくらませて、曲作りにもチャレンジする。 ・手話を少しずつ覚え、表現の世界を広げる。
プログラミングに挑戦しよう	・プログラミングの制作を行う中で、論理思考を身につける。 ・作品を作る中で、他者と協力する力を伸ばす。	・「Scratch」を用いて、プログラミングの世界を体験する。 ・後半はオリジナルの映像作品やゲームなどの制作を行い、文化祭での発表を目標に活動する。
トレーニング	・体力づくり ・体力向上	・走運動 ・補強運動
写真	写真の技術、技法について学び、様々な写真作品に触れ、芸術的な感性を養う。	・カメラ等の機材の基本的な操作法を学ぶ。 ・写真の表現技法について学ぶ。 ・様々な写真作品に触れ、感想や意見を述べ合う。 ・作品制作を通して自分自身を見つめなおす。
手作り小物 (ビーズステッチ)	自分でデザインしたビーズ作品を製作することで集中力と表現力を養う。	ビーズステッチの図案を考えてストラップなどの小物を製作する。作品は文化祭で展示する。
イラスト	文化祭で作品を発表することを目標にイラストを描く。自己の表現力を養う。	イラスト・漫画等、自分の描きたいものを自由に描く。作品は文化祭で展示する。

※開講講座は、年度ごとに変更する。

の時間割

校時	時刻	月	火	水	木	金
0	16:30 ～17:15	科目				
		教室				
1	17:30 ～18:15	科目				
		教室				
給食	18:15 ～18:30					
2	18:30 ～19:15	科目				
		教室				
3	19:20 ～20:05	科目				
		教室				
4	20:10 ～20:55	科目		H R		総合的な探究の時間
		教室				